

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                | 外部  | 項目                                                                                          | 自己評価                                                                                                                                                         | 外部評価                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                   |
|-------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                   |     |                                                                                             | 実践状況                                                                                                                                                         | 実践状況                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I.理念に基づく運営</b> |     |                                                                                             |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                   |
| 1                 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                          | 全職員が目にしやすいいビングに法人の理念を額に入れて貼り出し、職員同士が常に理念を共有しながら、さらに理念を意識した介護サービスの提供ができるよう努めている。                                                                              | 開設以来の5つの理念があり、各ユニットホールに掲示すると共に利用者の入居時には説明をしている。理念はカンファレンスや職場会でその都度確認し、認知症への理解も深めるようにしている。職員用トイレには接遇目標やスローガンが掲げられ、いつでも職員の目に触れるようになっている。職員への理念が周知されており苦情につながるような言動は見られないという。                                                                                                                       |                   |
| 2                 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br><br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                      | 平成26年より、毎月第3水曜日に開催される「健康達人クラブ」に参加させてもらい、地域の皆さんと交流を深めている。地域の皆さんも気軽に声をかけてくれるようになってきており参加した利用者からも毎回「楽しかった」と好評である。                                               | 法人として区へ協力費を納め、行事への誘いがその都度来ている。地区の文化祭へ利用者の作品を出品したり、小学校の音楽会や中学校の文化祭へ見学に出掛けたりしている。また、子ども神輿がホームへ回ってきたり、毎月開催される地元「健康達人クラブ」へ数名の利用者が参加し交流している。地元小学生や中学生との交流の際には事前に認知症への理解を深めるための説明や読み聞かせをしている。外出時には外出ボランティアのサポートがあり、行事の際にはジャズダンスや踊りのボランティアも来訪し、利用者の楽しみとなっている。気候や身体状況により参加は限られるが、年に数回、小学生の下校時の見守りも行っている。 |                   |
| 3                 |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br><br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                    | 小学校との交流は、3学年児童と行っているが例年交流会前に認知症やグループホームについて絵本の読み聞かせを行いながら理解してもらえるよう講演している。                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                   |
| 4                 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地元区を代表する区長さんや地域住民の代表者に会議のメンバーになってもらっているが、日常的に介護や医療とかかわりを持たない委員の発言は、介護従事者として気が付きにくい視点があり参考になることが多い。特に災害については地域の皆さんから危険ヶ所や対策方法等のアドバイスをいただくことが出来ている。            | 2ヶ月に1回、奇数月に利用者、家族、区長、民生委員、地域住民代表、市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員などが参加し、現況報告や活動報告、非常災害などについて話し合っている。夏祭りに合わせて開催し、ホームの状況を見学してもらったり、避難訓練に参加していただきアドバイスをもらったりしている。委員から備蓄についての指摘があり、ホームとして検討し対応したこともある。                                                                                                          |                   |
| 5                 | (4) | ○市町村との連携<br><br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる            | 3ヶ月に1度、介護相談員が来訪し利用者と話したり、毎月行われる市内4グループホームが集まったの会議では市職員、地域包括支援センター職員も加わり事例検討を行ない、その利用者の理解に努め、対応策を検討している。又、年1回職員の意見交換会では管理者が声掛け対応についての劇を行い自施設の状況なども含め意見交換を行った。 | 市主催の毎月のサービス調整会議やグループホーム部会に参加し、勉強会や事例検討会を通してお互いの情報をやり取りしている。また市高齢福祉課主催の認知症サポーター講座に参加したり、2年に1回ケアプラン点検の指導も受けている。介護認定更新の際には調査員がホームに来訪し、家族と一緒にスタッフも同席し、情報提供をしている。                                                                                                                                     |                   |

グループホーム柳橋

| 自己 | 外部  | 項目                                                                                                | 自己評価                                                                                                                                                   | 外部評価                                                                                                                                                                                                                                         |                   |
|----|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |     |                                                                                                   | 実践状況                                                                                                                                                   | 実践状況                                                                                                                                                                                                                                         | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br><br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 介護のための拘束は原則あり得ないが、万一の場合用に家人の了承と施設長の承認を得て拘束を行うための書類を用意している。また、建物の構造上、それぞれの階入り口が階段で危険であることから簡単な施錠をしているが、帰宅要求の強い利用者もいることから離設防止、危険防止のためにも止むを得ない措置と考えている。   | 身体拘束委員会を中心に「できる限り行わない」ことを意識し、学習したり検討している。帰宅願望や夜間不眠になる方がおり、転倒防止や所在確認のためセンサーを使用しているが、本人の訴えを否定せずに付き添ったり、家族へ電話をかけたり、お手伝いやホーム内を歩いていただくなどの対応をすることで落ち着かれているという。                                                                                     |                   |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている           | 関連法は、機会あるごとに学習する努力をしている。特に月々のカンファレンスの際に学習会を行い学びながら防止に努めている。グループホーム外での虐待の事実を確認することの難しさを理解しつつ介護従事者として見過ごさないことを念頭においている。                                  |                                                                                                                                                                                                                                              |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している       | 単身利用者の財産や金銭管理について、成年後見制度の活用を促す事例が多くなっている。なかなか多くの難しい課題があるうえ、利用者やグループホームの思うに任せない状況もある。又、多分に個人的なことであり、どこまで立ち入るべきかも含めて努力している。                              |                                                                                                                                                                                                                                              |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br><br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                        | 利用契約書の締結に際しては懇切丁寧な説明に努め、家族や身元引受人の不安を取り除く努力をしている。尚、報酬改定や利用料の改定時には家族あて文章を送付し、改定内容について詳しく説明し理解してもらうよう努めている。                                               |                                                                                                                                                                                                                                              |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br><br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                    | お花見、いちご狩り、家族会と年に3回出掛ける行事を計画し半数強の家族にも参加いただいている。各種行事や家族が面会に訪れた場合など、あらゆる機会をととして利用者や家族の要望や意見を聴くよう努めている。日常的に、利用者の生活要望に迅速に応えることが大切で、必要であることを職員全員で心がけて対応している。 | 利用者からの要望は直接聴いたり、意思疎通が困難な方については表情や仕草から読み取るようにしている。家族の面会の頻度は週1回や月1回など様々だが、面会時には利用者の様子を伝えたり要望を聴くようにしている。外出を兼ねた家族会が年3回あり、利用者や家族とのコミュニケーションを図りつつ、希望・要望を聴く場としている。毎月発行するお便り「弁天の泉」やお知らせの「入居者ご家族の皆様へ」「受診結果報告書」などが家族あてに送付されており、ホームでの様子を伝えるツールとし役立っている。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br><br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                     | 毎月の職場会には①入居者について②業務について③その他の項目の記入用紙に職員から意見を書きだしてもらい検討している。管理者は日常的に意見や提案を聞くよう心がけている。                                                                    | 毎月、職場会とユニットカンファレンスを実施している。会議では利用者のカンファレンスや業務について職員からの意見・要望を聞き、また、内部研修などを中心に話し合いも行っている。年間を通して、随時、管理者と職員の面談を実施し、業務内に個別に意見を聴くこともある。また職員のメンタルヘルスケアの一環としてストレスチェックも実施している。                                                                         |                   |

グループホーム柳橋

| 自己                           | 外部 | 項目                                                                                             | 自己評価                                                                                                                                                      | 外部評価 |                   |
|------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
|                              |    |                                                                                                | 実践状況                                                                                                                                                      | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12                           |    | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 他の事業所を参考に、交替勤体制を改善し、就業環境の整備に努めている。又、職員の健康管理に配慮し、毎日、朝、昼、夕方の3回腰痛体操を実施している。又、安全衛生委員会の委員を中心に、職場の点検を通して安全管理に努め、動きやすい職場環境の整備及び改善に努力している。                        |      |                   |
| 13                           |    | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 今年度より、毎月のカンファレンスを各ユニットごとに日時を分け、一緒に学習会を行うこととしている。勉強会の内容は介護、看護と項目分けし外部講師をお願いし学習している。また法人外の研修参加も行っている。                                                       |      |                   |
| 14                           |    | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 佐久圏域の連絡会の活動は少なくなっているが、市内4つのグループホームで毎月部会を開催し事例検討、救命救急講習、職員の意見交換会、交流会などを行っている。他施設の状況や対応方法等参考になることも多い。                                                       |      |                   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |                                                                                                |                                                                                                                                                           |      |                   |
| 15                           |    | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 入居予定の段階から、家族やケアマネージャーから詳細にわたり利用者の状況を聞くよう努めている。又、利用者本人とも面接をとって要望や心配ごとについて耳を傾け、入居後の不安を取り除くよう努めている。                                                          |      |                   |
| 16                           |    | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 家族が不安に思っていることや、入居後の要望把握に努めながら、どんな些細な要望やお願いごとにも真剣に聞くことで、実情を知るための努力をしている。又、職員間で情報を共有しあいながら、サービス向上に繋げていくよう努めている。                                             |      |                   |
| 17                           |    | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 介護及び医療の両面から、当面どのようなサービスを必要としているかについて情報収集に努め、要望を的確に見極めながら把握し、入居後の日常の介護サービスに結び付けるための対応を常に心がけている。                                                            |      |                   |
| 18                           |    | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 1階では洗濯物たたみやお盆拭きなどの作業をお願いし、作業後は必ずお礼を伝えるようにしている。重度の利用者が手アイロンでシワひとつなく洗濯物をたたむ姿はいつも感心させられる。2階では日常的に洗濯物たたみや箱折りなど利用者が得意とする簡単な手作業を教えてもらい利用者職員が協力し合える関係づくりに心がけている。 |      |                   |

グループホーム柳橋

| 自己                                 | 外部  | 項目                                                                                      | 自己評価                                                                                                                                                                                   | 外部評価                                                                                                                                                 |                   |
|------------------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                                    |     |                                                                                         | 実践状況                                                                                                                                                                                   | 実践状況                                                                                                                                                 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19                                 |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている            | 利用者の家族や知人が来訪した際は落ち着いて話ができる場所の提供に気配りをしている。また家族とは日頃の様子などを話したり、特にグループホームに対して気付いた点や要望などを聞くように努めている。                                                                                        |                                                                                                                                                      |                   |
| 20                                 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br><br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                    | 1階では歩行状態が悪くなりなじみの美容院に連れていけなくなったが美容師さんがグループホームに来てカットしてくれている。又誕生日会や家族会にも参加していた昔の話に花を咲かせている。2階では当施設の諸区出身の利用者がおり地元の行事に参加している。また昔の写真を見て、それぞれ懐かしい話をしながら利用者同士輪を広げている様子があるので適当な距離から見守ることにしている。 | 随時、友人・知人の来訪があり、地元の行事に参加したり、達人クラブで知り合いと旧交を温める利用もいる。以前に比べて外出や外泊をされる利用者が増え、馴染みの場所へ行く機会や気分転換の機会が増加している。外出・外泊する際には家族にホームでの生活状況を伝え、帰設時には様子を文書でいただくようにしている。 |                   |
| 21                                 |     | ○利用者同士の関係の支援<br><br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                | 1階では日常の生活が狭い空間の中であるため、利用者ひとり1人の行動が目立ち過ぎてしまうこともあるので、利用者同士の人間関係には特に気をつけている。2階では気の合う利用者同士の席を近くにしたりあまり会話のない利用者に対しては職員が近くに座り利用者同士で話ができるよう仲に入ることを心がけている。                                     |                                                                                                                                                      |                   |
| 22                                 |     | ○関係を断ち切らない取組み<br><br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者が退去後も、自宅で獲れた野菜や果物を持参してくれる家族もいる。又、入院や他所の施設に移った家族からの相談や具体的な対応を求められることもある。                                                                                                             |                                                                                                                                                      |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |     |                                                                                         |                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                      |                   |
| 23                                 | (9) | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | 日頃の利用者同士の会話や行動から利用者自身の希望や意向を把握し、利用者が困っていることなどはケアプランに活かし職員全員で共有することになっている。又、専門的なことに対してはその都度相談し、アドバイスしてもらったうえでケアプランに役立てるようにしている。                                                         | 自分の思いや意見を表出できる利用者からは直接希望を聴いたり、家族から情報を得たりしている。意思疎通が困難な方については生活歴や家族からの情報、日常生活の中での仕草や表情から推察するようにしている。またそれらの情報は職員間で共有し日頃のケアやプランに反映させている。                 |                   |
| 24                                 |     | ○これまでの暮らしの把握<br><br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                    | 本人に関する入居前の情報や資料を大切にしている。又、入居前に当法人の老健や他の施設を利用している場合は、なるべく事前に本人に会いに行くことを心がけ、その状況をケアプランに活かせるよう心がけている。                                                                                     |                                                                                                                                                      |                   |

グループホーム柳橋

| 自己 | 外部   | 項目                                                                                                     | 自己評価                                                                                                                                                                                                       | 外部評価                                                                                                                                                                                               |                   |
|----|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |      |                                                                                                        | 実践状況                                                                                                                                                                                                       | 実践状況                                                                                                                                                                                               | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている                                                     | 利用者本人の言動はもちろんのこと、利用者同士や職員との会話にも常に注意を払い、些細なことも把握し管理者、看護師に報告し対応を検討するよう努めている。                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                    |                   |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | それぞれ利用者の担当職員を決め、毎月開くカンファレンスの際に担当者から状態を確認するモニタリングシートを提出してもらっている。モニタリングシートをもとに利用者の支援方法について意見を出し合い、介護計画に取り入れるようにしている。                                                                                         | 担当制をとっており、職員は1～2名の利用者を担当している。毎月モニタリングをし、それを基にカンファレンスして次回のプランに活かしている。短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月に設定し、新規入居者の場合については1年間は3ヶ月ごとにアセスメントし更新している。また状態に変化のある時はその都度変更している。プランは利用者の希望や日常会話・行動からの情報、家族からの希望や情報を基に作成している。 |                   |
| 27 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日常生活の記録はカードックスを使用し利用者の情報を職員全員が把握するようにしている。又、内容ごとにボールペンの色を変えて記入することで、利用者のさまざまな情報が分かりやすく共有できるように努めている。                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                    |                   |
| 28 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 家族や周囲のみなさんと相談しながら、利用者の状態を的確に把握し、常に利用者自身にとって負担のない充実した介護サービスが受けられるように努めている。                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                    |                   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | 毎月、地元区の「健康達人くらぶ」や「ふれあい会食会」「文化祭」などに参加させてもらっている。「健康達人くらぶ」ではグループホームではなかなかやろうとしない体操もシャンとして行っている。小学生との交流会はグループホーム開設以来継続している。普段リビングでうとうとしている利用者も交流会では笑顔で拍手を送っている様子が見られる。                                         |                                                                                                                                                                                                    |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                     | 入居前の受診状況を把握し、かかりつけ医を変更しない方がよい場合は家族に協力してもらい受診を継続している。かかりつけ医の受診は必ず看護師が付き添うほか時には入所者と接して日常生活の状況を知っている介護職員も付き添い状況を報告をしている。又、本人の状態により専門医の受診が必要と思われた場合は家族に相談し受診を進めている。家族も医師からの説明により本人の状態を理解し来訪時の接し方にも気を付けてもらっている。 | 個々の希望に沿ってかかりつけ医の継続や協力医への変更を行っている。かかりつけ医や専門科目への受診は家族へ依頼し、付き添っていただいている。受診にスタッフが付き添う場合は、管理者か看護師が同行し、受診後、家族に電話で報告し、毎月の便りと共に受診結果報告書も同封している。訪問歯科が月に2回あり、該当者には診察と口腔ケアが提供されている。                            |                   |

グループホーム柳橋

| 自己                               | 外部   | 項目                                                                                                                  | 自己評価                                                                                                                                            | 外部評価                                                                                                                                                                                                                                        |                   |
|----------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                                  |      |                                                                                                                     | 実践状況                                                                                                                                            | 実践状況                                                                                                                                                                                                                                        | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31                               |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 利用者の普段の行動や症状などに異変が見受けられる場合は、直ちに看護師に状態を伝えたいので、場合によっては医療機関を受診することもある。                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                             |                   |
| 32                               |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先には利用者の生活状況や性格など必要な情報を詳しく伝えるよう努めている。又、環境の変化に対応できず不安になりやすいため、たとえ少しの時間でも職員が顔を出すことにより安心できるよう配慮している。尚、当法人の診療所に入院する機会が多いので、病状の把握や相談は比較的やりやすい環境にある。 |                                                                                                                                                                                                                                             |                   |
| 33                               | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 法人の方針で、グループホームとして看取りまでは行わないことを入居申請書提出の際、家族や関係の皆さんに説明し理解を求めている。併せて、重症化した場合の対応についても法人内の老健施設や診療所への移動があり得ることを説明し、共通理解としている。                         | 基本的にはホームでの看取りは行わない方針で食事や入浴、身体状況などを判断の基準とし、家族に十分説明した上で承諾書をいただいている。重度化した場合には法人内の老人保健施設などへの住み替えも提案し、利用者や家族の希望する生活が継続できるように努めている。また緊急時に対処できるようにダミー人形を用い、心肺蘇生法の講習も実施している。                                                                        |                   |
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている                                              | 内部研修で利用者の急変時の対応について学ぶとともに、日々の生活の中で利用者の状態の変化に気づけるようにしている。11月には小諸市グループホーム部会が主催する「普通救急救命講習会」に参加する予定。その他専門的な対応については看護師から指導を受け、対応できるようにしている。         |                                                                                                                                                                                                                                             |                   |
| 35                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている                                              | 毎年2回定期的に防災訓練を実施し、その際、消防署員の出席を求め、専門的な立場からアドバイスをいただき次回に役立てるよう努めている。同時に、職員が消火器や火災通報装置の使用方法を確認し非常時に備えている。又、運営推進会議委員に訓練を見てもらい、終了後会議を開き意見を聞いている。      | 春と秋の年2回通報訓練や消火訓練、総合訓練などを実施し、春の訓練では避難までに時間がかかると指摘があったため、秋には時間を意識した訓練を行った。防災訓練後には手順などを記した資料を提示し、職員で読み合わせを実施している。法人と区で防災協定を結んでおり、万が一には隣人が駆けつけるようになっている。また地下には水や食料品などの備蓄もあり、各フロアには避難経路図も貼り出されている。毎月電源やコンセントの点検も行い、火災防止に努め、非常災害を想定した計画書も作成されている。 |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |                                                                                                                     |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                             |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                                                      | 利用者への言葉かけについては、丁寧語で対応することを職員相互の共通認識としているが、日常的にはかなりハードルは高い。このため、法人の「接遇委員会」で月々の目標を定め精力的に活動している。                                                   | 基本的に利用者の呼び方は苗字に「さん」付けでお呼びしている。法人内に接遇委員会があり、月々の目標を職員は意識し実践するようにしている。また権利擁護や高齢者虐待防止などの内部研修を行い、具体的事例を挙げながら職員の人権意識を高めるようにしている。                                                                                                                  |                   |

グループホーム柳橋

| 自己 | 外部   | 項目                                                                                   | 自己評価                                                                                                                                                                                                                            | 外部評価                                                                                                                                                                             |                   |
|----|------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |      |                                                                                      | 実践状況                                                                                                                                                                                                                            | 実践状況                                                                                                                                                                             | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br><br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 日常生活をとおして、利用者の言葉や表情から何を希望しているかを酌み取ったり推測をしたりして、直ぐに支援できるよう日頃から心がけている。                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                  |                   |
| 38 |      | ○日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1階では入浴や食事、体操やレクリエーションの時間は予め決めたうえで対応しているが居室で過ごしたい方、好きなテレビ番組を見たい利用者など、それぞれに過ごしてもらるようにしている。2階ではレク活動や散歩、外出のお手伝いも含めてその都度声掛けにより促しているが、利用者自身が望まないときには自身のペースでリビングや居室で過ごしてもらうよう努めている。                                                    |                                                                                                                                                                                  |                   |
| 39 |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br><br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 1階では洋服にこだわりを持っている利用者には、毎日の更衣時に自分で洋服を選んでもらうようにしている。洋服ダンスの中の洋服が気になる利用者はダンスの引き出しを外し常に洋服が見えるようにしておくなどの工夫している。2階では利用者自身が気に入っている洋服があり外出時には必ず着用しているので長く着られるよう洗濯などには気を使っている。また同じ洋服ばかりを着ていて家族が持参した新しい洋服を着ない場合もあるので外出時には新しい洋服を着るよう心がけている。 |                                                                                                                                                                                  |                   |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | ゴマすりや野菜の下ごしらえ、食前の台拭きのお手伝いをしてもらっている。又、食欲がわくように盛り付けや色合いも工夫している。一人ひとりの食事摂取の状態を見ながら食器や食形態を工夫するようにしている。下膳後の洗ったお盆を拭いてもらうお手伝いを毎日していただいている。                                                                                             | ほとんどの方が自力で摂取できるが、刻みやトロミで対応する方もいる。献立は職員が考え、必要時には法人の管理栄養士に相談し、腎機能低下の方には生野菜を禁止にしたり、体重が増加傾向の方には量や器を調節するなど配慮をしている。また利用者は洗い物や台拭き、お盆拭きなど可能な範囲で行っている。誕生日会には本人の好きなものを提供し、家族へも参加の声掛けをしている。 |                   |
| 41 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 予め、つくる食事が決まっていないので、前の食事が把握できるよう献立表に記入している。水分量は脱水症状に十分気をつけながら摂取量をチェックしている。少ない利用者に対しては食事やお茶以外の時間にも促している。摂取時にムセや拒否のある利用者にはトロメリンを使用したり、ゼリー状にして食べやすくするよう努めている。                                                                       |                                                                                                                                                                                  |                   |

グループホーム柳橋

| 自己 | 外部   | 項目                                                                              | 自己評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 外部評価                                                                                                                                                                                                                 |                   |
|----|------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |      |                                                                                 | 実践状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 実践状況                                                                                                                                                                                                                 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                  | 毎食後歯磨きを促し、出来ない利用者は介助で行っている。訪問歯科で月2回検診と口腔ケアの受診ができ、それぞれの利用者に適した口腔ケアをアドバイスしてもらうとともに、職員にも周知し毎食後の口腔ケアに生かせるようにしている。                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                      |                   |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている  | 1階ではリハビリパンツや尿取りパッドを使っている利用者は大勢いるが、日中は声掛けや誘導でトイレでの排泄を促すことにより失禁は少なくなってきた。逆に、自らトイレに行く利用者が失禁していることがあるので、排泄時の様子をできるだけ確認するようにしている。トイレの前に必ず手を洗う習慣のある利用者もあり確認の目安としている。2階では利用者一人ひとりの状態が異なっていて重度化する場合もあつたり逆に尿取りパットやオムツの種類が増えてしまう確率の方が多くなるが、できるだけトイレでの排泄を心がけるようにしている。また落ち着かない場合は時間をかけて促し、清潔が保てるよう心がけている。トイレの位置が分からない利用者のために貼り紙や目印の花輪を付けるなどの工夫をしている。 | 排泄チェック表や個々の排泄パターンを基にトイレ誘導や排泄介助を行い、できる限り現状を維持できるようにしている。利用者の自立度は自力でできたり、衣類の着脱に介助が必要だったり様々だが、本人の表情や仕草を見ながらできない所を介助するようにしている。またトイレ入り口に「便所、御手洗、トイレ」など、複数の表示をし、利用者に認識してもらえよう工夫している。排泄用品の変更に関しては、随時、家族へ状況報告し、許可を得るようにしている。 |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                  | グループホームの生活はどうしても運動不足になりがちなので、毎日ラジオ体操や散歩を取り入れている。少しでも体を動かすことで便秘の予防に努めているが、どうしても便秘になってしまう利用者に対しては本人の状態に配慮し下剤での対応をしている。                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                      |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている | 1階では一番風呂にこだわる利用者があるので、その都度一番風呂に入ってもらおうようにしている。又、利用者同士の平素の関係にも気をつけながら入浴の順番に配慮すよう心がけている。2階では入浴時間を介助する側で決めているが出来るだけゆつくりと入浴が出来るよう工夫している。また季節が感じられるよう時々入浴剤を替えたりしている。入浴を拒否する利用者に対しては入浴時間をずらしたり声をかける職員を変えたりしている。                                                                                                                                | 基本的には週2回の入浴となっている。見守りや介助が必要な方がほとんどであるが、できる限り自分で行ってもらおうようにしている。身体状況によっては二人介助で行うこともある。入浴を拒否される利用者もいるが、声掛けの職員を替えたり、時間をおいたりして柔軟に対応するようにしている。また季節によってゆず湯などの季節感を味わうことのできる工夫もしており、家族と温泉へ出掛ける利用者もいる。                         |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                   | 居室でひとりで気楽に休む以外には、リビングにソファを置き自由に休めるようにしている。季節に応じた過ごしやすい室温管理に気を配るとともに、少しでも過ごしやすい快適な環境づくりに努めている。                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                      |                   |



グループホーム柳橋

| 自己 | 外部   | 項目                                                                                                              | 自己評価                                                                                                                                                                                                                      | 外部評価                                                                                                                                                                                                                   |                   |
|----|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |      |                                                                                                                 | 実践状況                                                                                                                                                                                                                      | 実践状況                                                                                                                                                                                                                   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 |      | ○服薬支援<br><br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                                          | 受診したうえで医師からの処方をもとに看護師より説明を受け対応している。又、投薬の間違いをなくすため、必ず氏名を色分けしてあることを再確認したうえで投薬をするように心がけている。又、内服薬の効能が分かるように利用者ごとのファイルにまとめ、いつでも見ることができるようになっている。                                                                               |                                                                                                                                                                                                                        |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 1階では毎日のお天気を記入してもらったり、利用者の洗濯ものをきれいにたたんでもらっている。些細なことでも、できる限り利用者同士が会話ができるように誘導していくように心がけている。2階では家族や周囲から聞いた生活歴やグループホームでの生活を通して好きなことや趣味、興味を見つけ出すように心がけている。また手先が器用な利用者には雑巾縫いや干支の貼り絵を作成してもらいリビングに飾っている。                          |                                                                                                                                                                                                                        |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br><br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 1階ではお天気のいい日は、グループホーム南庭の遊歩道を散歩したり庭のベンチでみんなで歌を歌ったりしている。地元諸区が主催する月一回の「健康達人くらぶ」を楽しみにしている利用者もいる。年に3回ほど全員で外出する機会を計画し、家族や地域のボランティアに協力してもらっている。2階ではその日の天候を見ながら交替で庭や散歩に出かけるよう努めている。また花見やいちご狩りなど季節ごとの行事には家族に声をかけ一緒に参加してもらうよう心がけている。 | 日常的にはホームの庭で日光浴をしたり、散歩をしたりしている。利用者の重度化に伴い、頻繁な外出は困難であるが、年3回、利用者・家族・職員が一緒に外出する機会を設け、花見やイチゴ狩り、上田の大河ドラマ館などへ出掛け、楽しいひと時を過ごしたという。また、少人数で小学校の音楽会や中学校の文化祭へ外出する機会も設けている。普段から身体機能の低下を防いだり、生活にメリハリを持ってもらうための体操や個人リハビリなどで気分転換も図っている。 |                   |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br><br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                             | 1階では現在金銭を自分で所有している利用者はいないが、預り金を管理して本人に必要な物を購入している。また週2回の買い物の時には何か食べたい物があるか聞いて購入するようにしている。2階では自己管理が難しい利用者もいるのでグループホームとしてまとめて管理している。また入居当初より自宅から小銭を持参している利用者もいる。利用者本人から欲しいものがあれば購入できるよう支援している。                              |                                                                                                                                                                                                                        |                   |

グループホーム柳橋

| 自己 | 外部   | 項目                                                                                                                                   | 自己評価                                                                                                                                                                                                                         | 外部評価                                                                                                                                                                                                                                                            |                   |
|----|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |      |                                                                                                                                      | 実践状況                                                                                                                                                                                                                         | 実践状況                                                                                                                                                                                                                                                            | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br><br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている                                                                           | 1階では利用者全員が家族や知人に年賀状や暑中見舞いを書くことにしているので、あて名書きなどの支援をしている。遠方の娘さんからは久しぶりに母の字を見ることが出来たと喜びの返事をいただいた。その後娘さんからも絵葉書が届くようになり本人も大変喜んでいる。2階では帰宅願望が強い利用者があり電話をかけたいとの訴えがあるため状況によっては使用できないことも時々ある。また旧友から時々手紙が届く利用者に対してはハガキでやりとりが出来るよう支援している。 |                                                                                                                                                                                                                                                                 |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室やリビングはすべて南向きであるため日差しが入りやすくなっているが、窓が大きいので夏場は暑くなるので、よしずを下げたり涼しさを感じるよう気配りをしている。毎月々、利用者と職員と一緒に作成した貼り絵やカレンダーを居室に飾って季節を感じていただけるようにしている。                                                                                          | ホールは広く窓からの採光が良く、パネルヒーターとエアコンで空調管理をしている。ホールには利用者が作成した作品が飾られ、外には広い庭もあり、気候が良い日には散歩や日光浴をして過ごしている。各ユニットにはトイレが3ヶ所あり、車いすでもゆったり入ることのできる造りとなっている。また浴室は洗い場が広くゆったりとしていて、浴槽は半埋め込みの1面介助の造りのため、足台やスライドボードなどで工夫し入浴できるようにしている。                                                  |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br><br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている                                                      | 気の合う利用者同士でお互いの居室を歩き来したり、晴れた日は窓辺で日なたぼっこを楽しんでいる利用者もいる。リビングのソファを自分の居場所と譲らない利用者があるため、その場所に他の利用者が座らないよう配慮している。                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                 |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                                          | 1階では家族の写真を持ってきていただいて飾ったり、洋服へのこだわりが強い利用者には、タンスの引き出しを出して中の洋服が見えるよう工夫している。2階では居室に利用者自身が使い慣れたものを持参してもらい希望する場合にはレクの時間に作ったものを飾り、心地よい居場所づくりに心がけている。                                                                                 | 居室入口には木製の表札が掲げられ、天井には和風の照明もあり、全体的に和の雰囲気がある居室となっている。ベッド、エアコン、パネルヒーター、タンスなどが備え付けられており、窓からの採光も良く、ぶどう畑を眺めることが出来る。ある居室には親族と一緒に写った写真や行事の写真が飾られ、利用者が行った塗り絵なども壁に張られていた。また、衣類にこだわりのある利用者にはタンスの戸を取りはずし、衣類が見えるような工夫をしている居室も見られた。防災対策としてベッドのヘッドボードにマスクが吊り下げられており、万が一に備えている。 |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br><br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している                                             | トイレの位置が分かりにくい利用者もいるので、貼り紙をしたり廊下に矢印をつけたりしている。又、居室には表札をつけているが、それ以外にも廊下から見えるよう名前や目印をつけている利用者もいる。居室にあるキャビネットには、片付けやすいようにシールを貼り自身で出し入れしやすいように工夫している。                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                 |                   |